

第 5 回社会教育委員会議	
開催日時	令和 5 年 3 月 3 日 (金) 午後 3 時～午後 5 時
会 場	クロスパルにいがた 5 階 交流ホール 2
出席者	<p>【社会教育委員】 雲尾 周、小倉 壮平、角野 仁美、木村 いほ子、清水 隆太郎、司山 園美、白神 道子、山岸 則子 計 8 名 ※敬称略</p> <p>【講師】 新潟市障がい者基幹相談支援センター東、株式会社 NSG ソシアルサポート 計 2 名</p> <p>【事務局】 地域教育推進課長、中央公民館長、中央図書館長、生涯学習センター所長、生涯学習センター職員 3 名 計 7 名</p>
内 容	<p>1 開会</p> <p>2 報告事項</p> <p>(1) 令和 5 年度各種研究大会等日程について ○報告資料 1 に基づき、事務局が令和 5 年度の各種研究大会の日程等について説明を行いました。 【主な質問・意見等】 ・質問や意見はありませんでした。</p> <p>(2) 家庭教育支援事業の取組について ○報告資料 2 に基づき、木村委員及び事務局が家庭教育支援事業の取組について説明しました。 【主な質問・意見等】 ・質問や意見はありませんでした。</p> <p>3 協議事項</p> <p>(1) 新潟県社会教育研究大会胎内大会の発表について ○協議資料 1 に基づき、事務局が新潟県社会教育研修大会の発表について説明しました。 【主な質問・意見等】 ・新潟市が担当する分科会の発表内容は、過去の実践ではなく、現在取り組んでいるものから選定したい。</p> <p>(2) 今後の調査研究等について ○新潟市基幹相談支援センター東及び株式会社 NSG ソシアルサポート様より、障がいのある人や保護者への支援の実態等についてお話しいただきました。 ○今後の調査研究活動について意見交換を行いました。 【主な質問・意見等】 ○A「子どもと若者の参画を促すネットワーク」グループ ・子どもと若者を一括りに考えるのはすごく難しい。子どもや若者に限った場合は見えるのだが、何かこの中で行動を起こすのであれば、どちらかに絞るとか、分けるとかした方がいいのかなと思った。 ・現場にいと、困り感をもった人たちは子ども・若者とつながっていくので、やはり同じかなとは思っている。困り感に何か原因があるかというところではない子もたくさんいて、そこが、多分年齢を重ねていくと、今度は若者の支援につな</p>

<p>内 容</p>	<p>がっていく。そういう一連のつながりがあると思っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・焦点を絞るという意味では、既存の施設がどのようにアップデートされたらいいのかということを考えたい。図書館や公民館がどのように変わり、何を新しく始めたらいいのかというところの提案、提言が今回のこのチームでできたらいい。それは、小学生に対してもかもしれないし、中高生に対してもかもしれないが、そこに絞って考えていくというのはどうだろうか。</li> <li>・マイナスを何とかしようということに着目していくのか、プラスをより伸ばしていくことに着目していくのかによって方向性は変わってくる。イメージからいくと、「子どもや若者の参画を促すネットワーク」と言った時には、やはりプラスをさらに伸ばすというイメージが出てくる。</li> <li>・一つの理想の形だったのが、坂井輪公民館の「じのび」である。自由に伸び伸びの空間があって、部活をする子は学校にいるし、図書館に行きたくてしっかり勉強したい子はしているけれども、じのびは行き場のない子たちの場所だった。行き場のない子たちが、自由に伸び伸び、何をしてもいいし何もしなくてもいい空間として存在していて、子どもたちはそこに集まってくる。そして時にはそこにユースアドバイザーのような人たちがいて、別に声を掛けるわけではないけれど、何か相談がある時にはのる。</li> <li>・「じのび」の場所は、バンドをしたい子たちは音楽室を借りることもできる。だからそこでバンドをしたり、音楽室を使わせてもらっているお礼ということで夏休みに一日バンドコンテストをしたり。それは自分たちでチケットとかポスターとかを全部作って運営していた。要するにやることがなかった若者たちが、この公民館の自由な場を舞台にして伸びて行って、地域の中で……。そこで中高時代を過ごした学生がうちの大学のゼミに入ってきて、それで卒論も書いたり、本人もそのスタッフになったりした。</li> <li>・その有益性をきちんと立証できると、公民館の次のステップとして開いていける。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学童もポイントで、その中に若者も入ってくれるかもしれないと思うととてもいいと思っている。そういう広がりをもたせていくような活動ができないだろうか。</li> <li>・今は学童に指導員だけが入っているが、することがなくて困っている。</li> <li>・場所もお金も人材も余裕がないというのが現状で、それを危惧している。以前、学童に子どもを預けていた方たちから、以前はすごく楽しいこともたくさんやって、キャンプもやったし〇〇もやったし…と聞くけれど、今はとても無理だと思う。本当はそういう体験も経験も、子どもを長時間お預かりするのだからあるといいのだろうなと思いつつも、なかなかできない。</li> <li>・ふれあいスクールをやっている学校であれば、そこに行ってから学童に行けば、それでも少しは遊ぶ時間があるが、ふれあいスクールは全部の学校で行っているわけではなく、実施も週1回とか週2回である。</li> <li>・10年くらい前は、毎週土曜日は学童に読み聞かせに行っていたが、それはまだ余裕のあるころ。今はそういうものを企画することができないくらい学童のスタッフに余裕がない。</li> <li>・公民館の利用は、「中学校から歩いて行ける」「駅から近い」など寄りやすさ、立地条件も関係している。</li> <li>・立地条件は変えられないが、アウトリーチなどその立地条件をカバーする方法を提案したい。何か空間的な工夫はできるかもしれない。</li> <li>・新潟市の方向性として、公民館のあり方がどうなっているのか調べたい。</li> <li>・公民館は公的な場所であり、社会教育が一番近いので、まずはそこを探りながら、その後広げられたら図書館、学童との連携について考えていく。</li> </ul>
------------	--

<p>内 容</p>	<p>○B「共生社会の実現に向けた学びの在り方とネットワーク」グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回は外国の方との共生、今回は障がいのある方との共生についての学びである。共通しているのは、企画をする時、かかわっていただきたい時は、当事者の方々にも入っていただくことで、本来のあるべき姿を見出せることだと感じた。また、ご家族との関係や理解も重要だと感じた。</li> <li>・ お二人の話を聞いて感じたのは、情報と情報が分断されてしまうということ。そこをつなげていかなければいけない。</li> <li>・ 障がいのある方がいる保護者というのは、とにかく大変なのだろうというイメージがある。だから、その人たちの社会教育は、「余暇的な部分」や「これからの自分の生き方」など、そういうことが必要なのだろうけれども、そこに社会教育が入る余地があるのだろうかと感じた。</li> <li>・ 周囲の思い込みもあるので、まずは障がいについて知ることがとても大事だと思った。</li> <li>・ 情報の発信の仕方についても、「障がいがあるから配慮しよう」というのも必要だが、逆にもっと垣根なしに一緒にいられる場所などがあればよいのではないか。それは社会教育でできる範疇なのではないかなと思う。</li> <li>・ 障がい者というと、「障がいがある〇〇さん」となってしまう。障がいにも様々なグラデーションになっているのに、「発達障がい」や「身体障がい」などの大きな括りに入ってしまうと個がなくなってしまう。また、逆に配慮し過ぎるのが区別、差別につながってしまっているということもある。配慮し過ぎて周りに配慮できない状態、例えば公民館で障がいのある方に配慮し過ぎていて、すべてのテンポを遅くしたら一般の方が楽しめなくなって、そうするとこの人たちに配慮できていないということになる。いろいろな選択肢があり、「分かりやすく」は、「誰にとっても分かりやすい」というのが大切。そうなると嬉しい。</li> <li>・ 障がい者の保護者とか障がい者自身の社会教育の場をつくるということの前に、健常者の人たちが小さい時に親子で障がいについて経験、学ぶ場があるとよいのではと思った。</li> <li>・ 障がい者の方が助けられるだけの人たちではなくて、彼等のすごい能力、より活躍できるものがあるというところも、もっとフォーカスしていきたい。</li> <li>・ ある小学校では、4年生が福祉について半年間くらいかけて学んでいる。いろいろと疑似体験をして、最後に自分たちが考えた企画に障がいのある方を招いて一緒に参加するという活動をしている。例えば、「障がいのある方と一緒にどうしたことしたら楽しいか」ということを子どもが発信したら、「子どもがみんな考えてくれたのだ」と感じて参加しやすいのではと思った。</li> </ul> <p>4 その他</p> <p>○第6回の会議については、事務局で調整後、各委員にお伝えすることを確認しました。</p> <p>5 閉会</p>
------------	---

第 35 期新潟市社会教育委員会議 会議概要

傍聴者	0名
会議資料等	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 第 35 期新潟市社会教育委員会議（第 4 回）次第</li><li>・ 報告資料 1 令和 5 年度各種研究大会等日程について</li><li>・ 報告資料 2 家庭教育支援事業の取組について</li><li>・ 協議資料 1 新潟県社会教育研究大会胎内大会の発表について</li></ul>